

“ちいさな企業” 成長本部（大分県大分市）  
議事概要

中小企業庁

- ・日時：平成25年9月26日（木）10：00～12：00
- ・場所：大分県大分市（大分県労働福祉会館）
- ・「“ちいさな企業” 成長本部」行動計画等に関する取組をご紹介いただくとともに、意見交換を行った。
- ・参加者からの主なご意見は以下のとおり。

<中小企業・小規模事業者>

- アコヤ真珠の養殖をしているが、市内の真珠養殖業者は、200軒から15軒に減少している。就業者の75%が女性であり、地域一丸となってアクセサリ等へブランド化を進めている。
- 商店街の空き店舗対策は、テナントミックスとイベントミックスを組み合わせで進めている。今や成功事例にはなっているが、今後は町全体のマネジメントが課題であり、商売人だけでなく、まちづくりの人材が必要。
- 温泉地だが、温泉に入って帰るだけでは小さな宿は生き残れない。機能浴としてのPRや、周辺の観光資源も含めて地域活性化に繋げたい。
- 農業用水を活用して小水力発電を行っており、売電収入を用水路整備等に回しているが、耕作放棄が進むと耕地面積に応じて水量が制限されてしまう。発電用に十分な水量が確保できるよう関係省庁で連携してほしい。
- 農商工連携の認定をもらったが、認定を取るまでの手続きが複雑で、ハードルが高かった。認定後は、支援機関のアドバイスや助成をうけて、なんとか商品化にたどり着いた。
- 助成金を受ける際、申請書類の量が多く、手続きも難しいので、簡素化してほしい。
- 中小企業の素晴らしい技術が、海外に流出するのを食い止めてほしい。中国人とも人と人の信頼関係があれば大きなビジネスができています。

- 事業転換を図る際、大変苦労したが、ITを導入することで状況が変わった。客が欲しい商品をつくるかを第一に考え、今後も努力していきたい。
- 以前は100%下請で、設備まで親元から貸与してもらっていたが、最近は装置の購入等を自社で始め、その後新規装置の開発も始めた。
- 更なるコストダウンに取り組み、また少量・多品種・短納期を目指して努力している。皆に選ばれる、世界NO. 1の下請企業になりたいと思っている。
- 伝統工芸品の一つである竹細工商品を製造。十数年前から美術品としての展開や、アクセサリ商品の開発など進めている。公的支援を受けて技術者は育てているが、販路開拓ができていない。

#### <支援機関>

- 中小企業の経営者は、経営の勉強をしている人が少ない。そこで、経営者の交流会をスタートさせ勉強や情報提供の機会をつくり、広く参加いただいている。
- 事業認定後のフォローアップを求める声は多いので、販路開拓支援などを実施している。
- 支援機関同士が連携して、創業期からその後の成長ステージに応じた支援を行い、地域活性化に貢献したい。
- 中小企業の自助努力がまず大事だと考えている。



以上